

予算・決算委員会（平成30年度予算審査）総括質疑、各委員の質疑

総括質疑

**厳しい財政の
予算編成方法をたたく
市民・前進**

平成30年度の予算は、総合計画第3期基本計画における、第1次実施計画の最終年度として編成されたものと認識しています。今後の財政運営の健全化と、大型公共施設の更新などを控える中、中期財政見通しの単年度収支累積額が5億円の赤字を見込み、財政調整基金も減少している状況です。

財政の弾力性を表す指標である、経常収支比率が高止まりしている理由について、公債費や経常的支出の影響であるのかをたどりました。すべての事務事業について行政が担うべき必要性を検証し、限られた財源の重点的かつ効率的な活用をすることでありました。

事業の進捗よくや効果などを評価し、次のアクションを検討する事務事業評価で、廃止や統合と判定した事業が、そのままの内容で継続されています。ゼロベースによる予算編成を前提に事務事業評価や実施計画ローリング、横断業務調整会議で経た結果を踏まえて、事業の優先度、費用対効果などあらゆる視点から再検討し予算編成を行っているとのことですが、継続事業の見直しやスクラップアンドビルドが必要と提案しました。

(工藤)

**市民の福祉向上ができる
予算編成に
市政クラブ21**

今後も財政的に厳しい状況が続く中、市役所本庁舎や各公共施設の老朽化、人口減による市税などの減収、教育の問題、観光施策問題など多岐にわたる諸課題があります。

歳入では公共施設の老朽化や、機材更新をかんがみ、受益者負担を増額し、各施設が単独で運営できるようにしていくべきと提案しました。

高齢者の需要が高まる地域包括ケア支援や町内会役員、民生委員の担い手不足の問題を指摘し、早期対策の必要性について求めました。

教育では新たな学習指導要領への現場の対応状況や特色ある登別の教育との関連付けをたどりました。研修機会の充実や英語教育のサポート体制づくりに努めるとともに、地域総ぐるみで教育目標を達成する体制づくりとして登別版コミユニティ・スクールを推進することでありました。

観光ではホスピタリティーの向上による、イメージの改善を求めました。

最後に公助、共助、自助の役割を果たすとともに、それぞれが協力し合いながらどうしたら実現できるかについて検討を行うべきと提案しました。

(杉尾)

教育に関する質問

学校の耐震化

質 平成30年度の小中学校の耐震化率と未耐震の学校の状況は。

答 耐震化率は79・5%で、平成32年度には幌別西小学校、登別小学校、幌別東小学校、幌別中学校の耐震化が完了する予定である。

質 登別市宮住宅等長寿命化計画が平成31年度に改定されるが、校区内に市営住宅を抱える学校への影響は。

答 学校と公営住宅のあり方の関係については、影響などを都市整備部と協議しながら、どのようにしていくか考えていきたい。

(木村)

いじめを防止する取り組み

質 スマホに関連したいじめを防ぐ対策に取り組んでいるのか。また、今後の課題は。

答 スマホルールを作成し周知しているが、まだ浸透していない。また、現段階で、他種のないものに比べてトラブルの事例は多くないものの、今後さらなるスマホの普及が予想されることから、早い段階で取り組む必要がある。

スマホの利用に関しては、各学校において課題を継続的に取り上げてもらい、改善策を考えていきたい。

(宮武)

生活・福祉に関する質問

マイナンバーカードの活用に向けて

平成31年度より、マイナンバーカードを用いて住民票などのコンビニ交付を始める意向が示されました。導入には高額なシステム改修費が必要となるため、開始までの1年間において、コンビニ交付システムを導入した場合の費用対効果の検証を行うことを提案しました。年間7万件ある証明書発行業務の80%がコンビニ交付に移行できることが見込まれていることから、人件費縮減や支所再編の可能性について検討されることになりました。

(辻)

※ホスピタリティー…丁寧なもてなし。また、もてなしの心。

